



九十九島を巡る海賊船「海王」の船上で、船長のキャプテン海王とゲームを楽しむ子どもたち

九じろうの取材日記

県書道展で大賞を受賞
富川玉泉さん

ことしの春に開催された「第29回長崎県書道展」で、見事史上最年少で最優秀となる大賞を受賞した、富川玉泉さんにお話をお聞きしました。



富川玉泉(本名・郁子)さん(30歳)
高校生のころから各展覧会に出品するなど本格的に書道に取り組む。平成13年に初代「サンメールさせぼ」に選ばれ、1年間佐世保の観光親善大使として活躍。夫、長女と日宇町在住。

支えてくれた皆さんに感謝

県書道展は、県内最大規模の書道展で、今回は「漢字」や「かな」など六部門に合わせて千三百十五点が出展されました。
富川さんは、今回の史上最年少での大賞受賞という快挙について「受賞できるとは思っていませんでしたので、最高の結果となりました。これまで指導してくださった師匠をはじめ社中の先輩方、そして協力してくれた家族に感謝したいと思います」と話しました。

好きだから続けてきました

小学3年生から近所の友達と一緒に書道を始めたと富川さん

「書道が好きだったので、今まで続けることができました」と富川さん。「自分が表現したいように書くことが、面白さでもあり難しいところでもあります。文字のバランスや線の強弱、墨の濃淡などを考えながら作品にしますが、本当に奥が深いと感じます」と書道の魅力を語ってくれました。

たくさんの人に書道の魅力を
知って欲しい

最後に、「昔と比べると書道を習っている子どもが少なくなりましたが、わたしは書道を習うことがありましたし、自信にもなりました。たくさん子どもたちが



県書道展大賞受賞作品「陶淵明詩」(写真)は、中国六朝時代(3~6世紀)の墓誌銘を当時の書の形を基に、富川さん独自の表現で書き上げた作品です。

書道を習ってくれたらいいと思います。また、多くの人がいるような作品に触れ、書道の魅力を知って欲しいと思います。わたしは今、中国や日本の古典を題材に勉強しています。これからは独自のスタイルを創っていきけるように努力していきたいと思っています」と書道に対する思いを語ってくれました。

編集長から「一言」

特集「佐世保独楽」の取材で祇園小学校を訪れたとき、子どもたち「お姉ちゃんもこま回しの名人の？」と聞かれて戸惑いました。幼いころ、兄が教えてくれましたが、結局上手に回せなかったわたし。名人に習って、楽しそうにこまを回す子どもたちの姿がまぶしかったです。(N)



PUBLIC RELATIONS SASEBO

広報 No.646

させぼ



広報させぼ 編集長「キューちゃん」

特集 佐世保独楽

2 ~ 5 p

今月の主な内容

- 九十九島の祭典、ごみ出し方法の変更など 6 ~ 9 p
- 市民の広場 10 ~ 11 p
- イベント、施設だより 12 ~ 13 p
- 歴史散歩、カレンダー、テレホンガイド 22 ~ 23 p
- 九じろうの取材日記 24 p



広報させぼ

平成16年9月1日発行

佐世保市役所企画調整部秘書課広報係 TEL 0956-24-1111 FAX 25-2184 〒857-8585(市役所専用)長崎県佐世保市八幡町1-10 http://www.city.sasebo.nagasaki.jp 印刷/サン印刷株式会社



この「広報させぼ」は古紙配合率100%の再生紙と大豆油インクを使用しています。